

学校関係者評価報告書 (平成 27 年度)

平成 27 年 9 月

学校法人新潟総合学院
国際自然環境アウトドア専門学校

1. 学校関係者評価の実施について

今回の学校関係者評価は、文部科学省が策定した「専修学校における学校評価ガイドライン」に沿って実施した「学校自己点検報告書（平成 26 年度）」について、当校に関係の深い 5 名の評価委員（委員名簿）に評価していただいた。

評価委員には、学校運営状況をまとめた資料を配布し、自己評価報告書の内容について説明した上で意見等を聴取した。

2. 学校関係者評価委員会 委員

氏名	職名
はたけやま こういち 畠山 浩一	公益社団法人 日本山岳ガイド協会 試験委員会 委員長
いの わたる 伊野 亘	国立妙高青少年自然の家 所長
みやした とみお 宮下 富男	妙高市原通自治会 会長
まるやま ゆうじ 丸山 裕治	妙高市観光商工課 主事
ただ ゆきこ 多田 由希子	一般社団法人新潟アウトドア企画 事務局長
おおたき のりお 大瀧 則雄	学校長
ながい まさし 永井 将史	副校長
まつい しげる 松井 茂	教務部長 / 山岳プロ学科主任
あきやま きぬよ 秋山 絹世	事務局長
ながの やすゆき 長野 康之	自然環境保全学科、自然ガイド・環境保全学科主任
たなべ しんいち 田辺 慎一	野外教育学科主任 / こども自然保育学科主任
はっとり まさあき 服部 正秋	アウトドアスポーツ学科主任

3. 日時、場所

平成 27 年 9 月 25 日（金） 午後 15 時 30 分～17 時 00 分

国際自然環境アウトドア専門学校 306 教室

4. 委員会次第

(1) 開会

(2) 学校長挨拶

(3) 評価委員紹介

(4) 学校関係者評価委員会について

副校長より「学校関係者評価委員会規定」等の資料に基づき、学校関係者評価委員会の位置づけや目的について再度説明した。

(5) 職業実践専門課程について

副校長より「職業実践専門課程」の紹介資料に基づき、職業実践専門課程の設置された経緯や内容を説明した。

(6) 平成 26 年度学校自己評価報告

副校長より本年 9 月に作成した「学校自己評価報告書（平成 26 年度）」について、各評価項目における現状、課題と改善策について報告した。併せて自己評価の参考資料となる、教職員・学生・保護者アンケートの結果や、学校運営状況についてまとめた資料に基づいて学校運営の様々な状況について報告した。

(7) 審議

各評価委員から、自己点検・評価報告に対するご意見いただいた。評価委員の意見等は後記の通り。

(8) 閉会

5. 審議

学校自己評価報告書の内容を踏まえ、今後の学校運営の改善等について、各評価委員から以下のような意見をいただいた。

【各委員からの意見等】

畠山 浩一 委員

- ・ i-nac で取得ができる日本山岳ガイド協会の自然ガイド、登山ガイドの資格を卒業生全員が取得していないということは協会としての責任も感じる。自然ガイドの分野は横ばいもしくは成長産業であると思っており、外国の方向けのエコツアーなどニーズが

高まっているため通訳もできる“通訳ガイド”の今後需要が高まるのではないかと。

伊野 亘 委員

- ・ガイド資格があるのになかなかそれを活かさないという問題があるのでは。企業のニーズをうまく引き出すようなこちらからのアピールももっと必要ではないかと。

宮下 富男 委員

- ・就職採用試験時には同等のレベルの2人だとやはり資格の多い方が採用されることが多いので学生達は持っている資格をしっかりと活かしてほしい。
- ・縦の関係、横の関係はとても重要。3年制の学科であれば3年生の活躍を1年生に見せることや、横のつながりで他の学科との交流、また地域との横のつながりも引き続き強くして行ってほしい。

丸山 裕治 委員

- ・インバウンドがおおきな流れ。妙高高原には外国人（オーストラリア）の人がとても多い。冬はよいがグリーンシーズンの集客が大きな課題。自然ガイドの要素だけでなく言語もできるガイド=今後の妙高での必要な人材なのでは。
- ・鳥獣被害が多発している中で猟友会に入る若者は減っている。市のお金で資格を取れる仕組みにしているがなかなか増えていかない。単に動物が好きというだけでなく、山の怖さや生きものの知識など経験がないと就けないような専門職があればいいと思う。

多田 由希子 委員

- ・みなさんから話が出ている観光については国も県も力を入れている。この分野はやはり伸びていくのではないかと。野外教育の技術や知識があってもそれ以外の知識が全くないので社会に出た時に困る。言語もそうだが社会人としてのマナーなどがきちんとしてできる人間であれば離職率も下がることに繋がるのではないかと。
- ・自分が学生時代は全校生徒の人数も少なく、学科をまたいでの交流が多くあった。今は人数も増えてきているのでそのような機会が少ないように思う。交流の中で他分野の知識が増えることは将来の仕事にも大いに役立つのではないかと。

以上